

一般社団法人多文化社会専門職機構 2020 年度オンライン講座（全6回）

多文化社会へのまなざし

多文化社会専門職機構では、多文化社会の各分野の一線で活動する実践者・研究者によるオンライン講座を開催します。この講座は、各講師が一般的な知識に留まらず、それぞれの実践・研究の経験から独自の視点で語ることが特徴です。講義後、参加者との質疑応答を通じて理解を深めていきたいと思っております。多数のご参加をお待ちしております。

テーマ・日程：	第1回 今日多文化精神医療の課題と展望 2020年9月9日（水）19：30～21：00 講師：阿部 裕
	第2回 学校における多様性の価値を探る 2020年9月12日（土）19：30～21：00 講師：藤川 純子×小山 紳一郎
	第3回 「文化」「多文化」「多文化共生」とは 2020年9月16日（水）19：30～21：00 講師：山西 優二
	第4回 日本に住む外国とつながりのある人々の健康ニーズと対応への課題 2020年9月23日（水）19：30～21：00 講師：岡本 美代子
	第5回 多文化共生をテーマとする演劇活動の意義および設計のポイントについて 2020年9月26日（土）19：30～21：00 講師：飛田 勘文
	第6回 多様な背景を持った地域住民の言語生活と将来設計再考 ～日本語の習得、摩滅、喪失の過程を視野に入れつつ～ 2020年9月30日（水）19：30～21：00 講師：野山 広
	※各講座の詳細は別紙をご参照ください。
開催方法：	オンライン
対象：	テーマに関心のある方であれば、どなたでも参加できます
定員：	各講座25人（先着順）
参加費：	1講座あたり1,500円（多文化専門職機構会員1,000円）
申込方法：	下記URLよりお申込みください（お支払いはPeatixよりお願いいたします。） http://tassk.org/?p=1138

主催：一般社団法人 多文化社会専門職機構

第1回 今日の多文化精神医療の課題と展望



2020年9月9日（水）

19：30～21：00

阿部 裕

（四谷ゆいクリニック院長、多文化間精神医学会前理事長）

外国人技能実習生、外国人労働者、外国人留学生の増加に伴い、精神医療の領域も外国人受診の需要は増加していますが、国公立の病院の精神科でさえなかなか受け入れません。かなりの精神科医は英語を話しますが、受付やコメディカルが多言語を話せないため、外国人診療の受け入れは困難です。そこで、通訳者かテレビ電話医療通訳を利用しますが、コスト面が問題になります。最近では、コロナウィルスに絡んだ経済問題やコロナ不安からくる精神障害の悪化にも対応せざるを得ない現状にあります。

今回は、多文化クリニックにおける最近の精神障害の動向を報告し、外国人医療における問題点は何か、それを改善していくのに何が必要なのか、多文化共生社会が目指す精神医療とは何かを皆さまと一緒に考えていきたいと思います。

第2回 学校における多様性の価値を探る



2020年9月12日（土）

19：30～21：00

藤川 純子（小学校教諭、三重大学院生）

×小山 紳一郎（Social Inclusion Design Lab 代表、
明治大学ほか）

本講座は、いわゆる外国人児童生徒教育の方法を学ぶための講座ではありません。多文化教育、演劇教育、哲学対話等に関心を寄せる小山（進行役）が、長年、学校現場で多文化教育を実践してきた小学校教諭の藤川さんにインタビューをしつつ、教育をめぐる多様な話題について語り合う「インタビュー・ダイアログ」形式で進行します。

講座で取り上げる話題は、複言語の子どもの発達障害、身体知とインクルーシブ教育、地域に開かれた学校づくりなど。話の成り行き次第では、ソーシャルワークや教師教育論にまで話が拡張していく可能性もあります。二人の対話の中から生まれる思いがけない発見と“脱線”を楽しめる方の参加申し込みをお待ちしています。

第3回 「文化」「多文化」「多文化共生」とは



2020年9月16日（水）

19：30～21：00

山西 優二

（早稲田大学、かながわ開発教育センター）

多文化化、多文化社会、多文化共生など、多文化ということばを耳にすることが、非常に多くなってきています。ではそもそも文化とは何なのでしょう。なぜ人間は文化をつくり出し、なぜ人間は文化を必要とするのでしょうか。グローバル化が進む中での多文化化とは単に文化が多いことを指しているのでしょうか。多文化共生とは文化がどういう状態にあることを意味しているのでしょうか、また単に多文化を理解すれば多文化共生が実現するのでしょうか。私は、開発教育や国際理解教育に関わってくる中で、また国内外の文化のありように出会ってくる中で、上記のような問いに出会ってきました。講座ではこのような問いについて考えたいと思います。

第4回 日本に住む外国とつながりのある人々の健康ニーズと対応への課題



2020年9月23日（水）

19：30～21：00

岡本 美代子

（順天堂大学医療看護学部・公衆衛生看護学・准教授）

日本に住む外国とつながりのある人（つまり、外国出身者や日本国籍を持ちつつ外国の文化習慣を背景に持つ人）の人口的・社会構造的な要因を概説し、それらが健康に与える影響についての解説を予定しています。また、講師が近年実施した調査結果より明らかになったことを共有させて頂きます。さらには、現在の日本における保健・医療分野における発展的な研究や実践例を紹介させて頂きたいと思います。そして、今後求められている実践について、短期的・中長期的な展望をもちつつ多様な分野や職種の参加者からも多角的な視点を頂きながら議論をしたいと考えています。

第5回 多文化共生をテーマとする演劇活動の 意義および設計のポイントについて



2020年9月26日（土）

19：30～21：00

飛田 勘文

（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 招聘研究員）

本講座は、2つの内容で構成されています。前半は、現在、日本各地でどのような多文化共生をテーマとする演劇活動が行われているかを整理し、確認していきます。後半は、「外国ルーツの人々の立場に立つ」「多文化共生の問題点を具体化する」「新しい文化や社会を形づくる」など、多文化共生をテーマとする演劇活動の意義や、設計のポイントについて探っていきます。とくに、演劇活動に興味はあるけれど、自分が行うには難しそうだと感じている方に向け、多文化共生をテーマとする演劇活動を実施する上で押さえておくべき点や検討事項を丁寧に解説していきたいと考えています。

第6回 多様な背景を持った地域住民の言語生活と 将来設計再考

～日本語の習得、摩滅、喪失の過程を視野に入れつつ～



2020年9月30日（水）

19：30～21：00

野山 広

（国立国語研究所准教授、江戸川区地域デザイン学部国際コミュニティ学科長）

今回の講座では、今後の高齢化社会のさらなる進行を視野に入れつつ、多様な言語・文化背景を持った地域住民の人生（ライフ）や老後の言語生活について焦点を当てつつ、将来設計に関して再考を試みたいと思います。具体的には、講座の前半で、私（野山）自身が地域の関係者との協働で展開してきた約12年間の縦断調査（形成的フィールドワーク）の結果を報告するとともに、地域に定住した（複言語・複文化環境の）住民の日本語の習得から言語摩滅への変容、そして喪失に至る人生の過程に焦点を当てます。後半の意見交換の場では、前半の報告を踏まえて、彼ら／彼女たち／私たちの人生の終活／充実について共に再考することができたらと思います。